

## 1、連携型中高一貫教育の成果について

- ・少人数で丁寧な指導の結果、3校の連携クラス卒業生236名のうち、約41%の卒業生が国公立大学へ合格。3校の一般クラス卒業生の場合は、約23%が国公立大学へ進学していることと比較すると、一定の成果がでている。
- ・高校受験の負担が少なく、中3の時期にも高校の教員が指導できるので、高校入学後もいち早く高校生活になじむことができ、進学指導や部活動指導など学校生活面での効果がある。
- ・中高一貫教育によるゆとりを活用した面接指導や作文指導等を通して、コミュニケーション能力・文章力などの表現力や、地域への関心・理解が深まり貢献する姿勢が身に付いた生徒が多い。
- ・連携する高校への進学者を対象とする地元市町の奨学金制度や地元後援会組織による部活動等への支援を通して、地域に密着した高校としての意識が高まった。

## 2、連携型中高一貫教育の課題について

### (1) 共通の課題

- ・新学習指導要領に伴い、中学校において高校の学習を取り入れてきた「選択教科」の授業がなくなったことから、中学生が高校の学習内容に触れる機会を工夫する必要がある。

### (2) 地域別の課題

#### ○あわら地域

- ・交通の便がよく高校進学先の選択肢が多いことから、連携型中高一貫教育校への入学が期待される生徒をいかに確保していくか、その魅力づくりに対する検討が必要である。

(中高大連携や地域に関する探究的な学習など、中高を通じた連携クラスの魅力をつくる方法等)

#### ○朝日地域

- ・高校3年間、地域内からの生徒が同一クラスで学習するため、クラス内で切磋琢磨し、互いに高めあう仕組みを検討する必要がある。

#### ○三方・美浜地域

- ・地域内での生徒数が減少していく中で、連携型中高一貫教育の学習効果を高める仕組みを検討する必要がある。